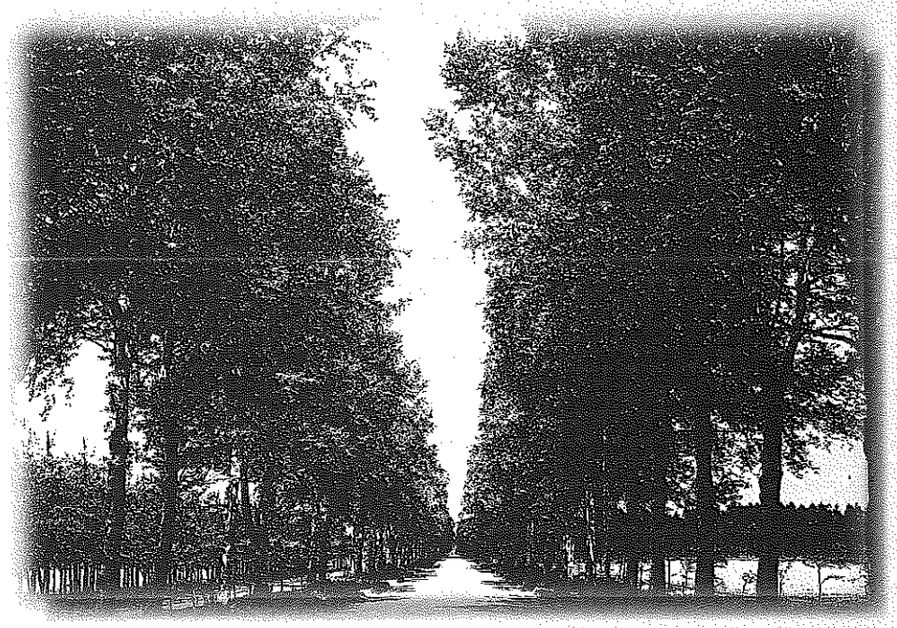
100年のあゆみ



株式会社 ヤマト木巧

ご あ い さ つ

明治37年9月渡道、この帯広の地に大和建具家具製作所として発足以来、昭和32年、有限会社大和家具店と法人化して平成4年9月株式会社ヤマト木巧に社名を変更し現在、こゝに満100周年を迎える事が出来ました。

これも一重に関係各位、お得意皆々様の暖かい御支援、御厚情の賜と心より感謝申し上げ、こゝに紙面より厚く御礼申し上げます。

昭和49年、第一次オイルショック来、日本の経済も年と共に安定し、あらゆる物質が満された時代の中で、私達建築関連業者の前途も年々厳しさを増して来ております。特に最近の住宅産業の低迷は私達が想像した以上にけわしいものがあり、加えて競走の激化と単価の底知らずの低下は頭を痛めるものがあります。そうした中で私達は、益々企業努力し、絶えずお客様に喜こんでもらえるよう安心して使ってもらえる良い製品作りに只今も努力中でございます。今后は更に社業発展の為、又お客様の御要望におこたへ出来るよう社員一丸となって建具家具製造に邁進する覚悟でおります。何卒旧に倍してより一層株式会社ヤマト木巧の製品を末長く御利用、御愛顧賜りますように衷心よりお願い申し上げます。

代表取締役
大 和 与 志 一

大 和 家 の 年 表

昭和61年10月1日　父・大和興三の記（18年前）

明治9年4月12日　祖父出生

渡道の記

祖父 大和権三郎は父 大和権三郎の長男として富山県高岡市木町百参拾参番地において出生する。

幼名は與次郎と云い後年父親の権三郎を襲名する。高岡市木町では200代も続いた古い家柄であった。商売はさだかでないが祖父が家業を継承してかなり手広く繁栄していたらしいが、世の移り変りはいつの世でも同じで商売が軌道に乗らず、新天地北海道に志を立て渡道する決心をして伏木の港から祖母 こと、長男 与一（私の父）と叔母 ソトと生れて21日しか経ってない乳飲み子（故札幌の大和鉄二郎叔父）の家族4人を引つれてお先真暗な前途にいどんだのである。時に明治37年9月、祖父28才、与一9才、ソト叔母4才、鉄二郎叔父生後21日たったばかりでした。

后日談であるが、祖父一家の故郷をあとにする時の武勇伝的話を私は幼少の頃祖母と父親から何回か聞かされた記憶があるので一筆書とめておきたいと思います。

祖父はその時家業の方も余り順調に繁栄していなかったらしく若干なり義理も人情も欠いたように思われる。又そうした中での北海道行きの決心もあったように思われる。

自分も含めて5人の家族が船に乗った時、親戚の者がハシケで船まで来て北海道など行くな、この地で頑張るように強く忠告したらしいが祖父いわく、どうせ恥をかくなら知らぬ他国で俺は恥をかくと云って船から下りなかったと云ふ言伝の話を振返へる時、祖父は負けん気のはげしい気性の持主であった事がうかがわれる。沢山の思い出の話の中でも特に印象的である。

そうした悲愴の決意をした家族はその時、船宗谷丸で一路小樽港を目指

して出航するが途中大きなシケに合い、故郷の木町ではあの船は沈んだろうと噂になったそうである。そうした自然の厳しさと戦いながら小樽に船が着いたのは9月に出て10月に入っていたが非常に寒かったと云う事である。当時の船はかなり小さかった事がうかがわれる。（日露戦争で大きな船が軍用船として徴収されたので）

小樽から汽車で旭川へ、旭川から狩勝峠の落合まで汽車で来る。（当時は帯広に来る時は落合止まりであったそうです）落合着は夜であったらしく北国の10月の夜をみじめな家族はどこかでお互の体をよせ合いながら宿を取ったのかと思われます。

次の朝早く家族は駅逓があった十勝清水まで歩く結果となる。1人10銭出せば清水まで馬に乗れたようですが、着の身着のままの落武者にはそのような貯えなどあろうはずがなく、持物と云ったら乳呑児の必要なおしめと身の廻品、コーモリと云った必需品ばかりであった。落合から清水までの道のりは又けわしいものがあったようです。后日私が耳にした話ですが、札幌の鉄二郎叔父が生れて21日経ったばかりを祖母が背おいながら未だ4才のソト叔母の手を引き、私の父与一は未だ9才、それはそれは言語に絶する難苦行だったようです。よごれたおしめなどは途中の川で洗いコーモリ傘の上に乾しながら取りかえ取りかえてようやく駅逓のある清水に着いたのは初冬の寒い夜だったそうです。何日かかって狩勝峠を越したかは私は聞いておりませんが、このような家族構成であればお互い想像が付く事と思われます。清水から汽車に乗り帯広に着いたわけですが、帯広では中村さんと云う人を頼って今の東2条6丁目1番地西仲通りの角の1軒2戸建借家の片方で早速ろばたに木の枝をくべて暖を取ったようです。（ソト叔母がその時の記憶が未だ覚えておると申してます）そうした帯広の第一歩のスタートに立った時、家族に残された財産は当時のお金で2銭だったそうですが、今私達が82年前を振返って見て伏木の港を発って1ケ月以上の間波にもまれ汽車にゆられ山野の峠を乳呑児と幼子を抱かえながらようやく

着いた帯広の第一歩もそうしてろばたから燃え上る煙の中から小さな炎を見た時、祖父母は限りない安堵と同時にどのような会話を交わした事でしょう。今私達一族のものは少なからず他の誰よりも判るような気がしてなりません。

生活の記

このような惨めな家族には安堵する暇などありません。先ぐ5人の家族が明日から食べる算段をしなければなりませんでした。丁度その時38年完成の帯広駅の新築工事が進行中であり、祖父も馴れない大工の手元として働いたそうです。帯広駅が明治38年10月開業ですから当座の生活は大工の手元をしながらでも何んとかなったわけらしいです。

古くから天は人に2物を与へずとか、色気と大工気は誰でもあると申しますように、私達の祖父は天命に逆らはず自分がもっとも特技とす技に自信をもって挑戦した根性と信命は今も未だ私達の体の中を流れる血の一滴となって生活の基盤をゆるぎなきものにし今もなお大和の技を通して社会の為にそれぞれの分野で一生懸命努力し誇をもてるのもこうした苦難の始まりがあった事も忘れてはならない。

明治38年　月日不明

新住所移転　独立開業

祖父も苦しいなかにも何んとか帯広町での正月を迎へたが、今思ってもそれは私達には想像も出来ないほど惨めなものでした。祖父も気性のはげしい負ん気の強い人で何時までも大工の手元などで人の下で働くような人ではなかったようです。よく祖母が話をしてくれた中では自分の気に喰わない事があれば先ぐ喧嘩になり、もう来るな俺も行かない、今で云う絶交と云った事がしばしばあったようで、そうした点では祖母は人一倍精神的苦労をした事と思われます。そのような人でしたから翌年38年のおそらく

冬も終り春頃だろうと思いますが現在の西3条南3丁目6番地に僅かの土地と小さな家を買求めて移動、住いの中に小さいながらも仕事場を作り、然別、伏古、東士狩と云った農家をお得意として独立開業し、こゝに大和建具家具製作所として現在の有限会社大和家具店の第一歩がふみ出されたわけです。

当時は成功家と云って国の土地に12坪の家を建てると162坪（今の1戸分）の土地が無償でもらえる制度がありましたが、祖父の場合は手に職があった為何一つも無償でもらったものはなく全部自分達で稼いだ金で買求めたようで何時も借金においかけられていたようです。

私も祖父母からは余り借金に関する話は聞かされなかったが、父とか叔父、叔母からは沢山借金にまつわる話を聞き、人からお金を借りるなと云う信念みたいなものが身についた事は辛い悲しい伝説から学んだ教訓と思います。

当時のこのような生活の中でお得意は然別、伏古、東士狩と云った農家が多く、玄関（入口）などは建具はなくむしろを下げろばたでタキ火をしながらの生活が多かったようです。幸い家のお得意の農家は土地が豊かな場所での営農者が多かったせいで腕の良い祖父の技術はかなり評判が良かったらしいですが、何せ気に喰わないと先ぐ喧嘩したり偏屈な仕事をするので能率は上らず、大和に建具を頼むと2年から3年はかかると云われたそうで私もこの道に入った当時はよく農家の年寄の人から大和の建具は良いがおそいと云われた記憶が多くありますが、昔はそれでも何年経っても待っていてくれたようで、今考えると信じられないくらい人情味があったようですね。

札幌の叔父が小学校に入る頃ですから明治44年頃叔父が小学校に入る頃は勝治叔父、与四雄叔父等も生れ段々家族も多くなり、お得意様の数もふえて私の父あたりも15才ぐらいになり祖父の手伝も出来るようになったらしく生活も何かしらゆとりが出て来たように思われ、札幌の叔父の話でも

判るように始めて家の中にストーブが付いたのもその頃だと申しておりますが相変ず家の中はせまかったらしく、昔のお客さんは自分で馬車をかけ一晩泊りで建具をとりに来てくれたらしいです。その宿がなんとせまい大家族の住宅兼建具工場なのだからたまらない。余分の布団などあろうはずがなく、一番良さそうな布団をお客用に急きょ間に合せる筋書だ。布団を取り上げられた家族は一晩中丹前を着て寝たと云ふ（鉄二郎叔父の話）

隆盛期に入る（大正5～6年頃より）

いくつかの変換を重ねて大正の中期に入るが、大和の一族も苦しいながらも根も太く細かく張って行ったように思われ、働手も私の父与一の他に鉄二郎叔父も働手として戦力になり、3人が一生懸命働くようになって来てからは家計も苦しいながらも少しづつゆとりがあるようになったようですが自分の地所を増さなければならない宿命があったわけです。もともと広い土地でなかったわけで人手も増へ商売も広くなって行くにしたがい土地の確保があったわけです。又その頃より徐々に借金に苦しめられるようになりました。今のように銀行などでなく俗に云ふ高利貸です。父や叔父は云っていました。昔の素人のチョイ貸と今のサラ金とではかなり違った面もあろうかと思われますが、高利貸と云ふ名の付く人からのお金は理くつは別として支払も大変だったように思われます。丁度勝治叔父が未だ子供の頃、伏古（今の西帯広）の堀内某と云ふ人から金額不明だが金を貸りたらしく期日になっても中々払へない、明日払ふ明後日払ふで何回か足を運んで来たそうですが、元金は払へず若干の利息で勘弁してもらふと云ふ始末である。相手の高利貸しは決まって昼食にやって来るそうです。金を貸り、返へせない者の弱みで祖母は苦しい家計の中からご馳走を作ってお膳を立てたとも勝治叔父はよく私に話してくれた事は私達は忘れてはならないと思います。当時そうした借金はあくまでも家計の足しと云ふ事ではなく将来への飛躍の為の土地の買収費としての原資だったのが徐々に力を

付けて行った大きな要因だったようです。

又、何時の世でも栄華盛衰栄えるものもあれば亡びるものもあるように隣地に高田と云ふ糠内の人で正油屋があって一時大変繁栄して羽振りを利かしていたようだが奢りもあり段々商売が下火になり、土地を売ると云ふ事になり隣地であるが由借金しても買わなければならない羽目になった事が借金の大きな原因のようですが、苦しい中からも何んとか力も貯へられたようです。無我夢中の中でこそ人間の隆盛があるのではないかと私達は教訓として学ばなければならないと悟ります。

昭和初期の頃の動向（5～6年頃）

勝治叔父も働くようになり昭和2年12月4日に鉄二郎叔父も結婚して大和一族も働手は萬全の構へとなりましたが、十勝は農村の不況の為働くにも仕事がなく父与一と鉄二郎叔父は札幌に出稼に行く（昭和5年～6年頃）夜は残業2時頃まで働らく、札幌の出稼先の岩淵建具店の主人からよく働らいてくれたと感謝されたようです。私も当時の話は父から余り聞されなかったのですが、鉄二郎叔父と私の母ノブより時折耳にした記憶は未だ新しく残っております。11月の20日頃より12月の20日頃までの出稼はいくら札幌が十勝より暖かいと云っても、おそらく寒かった事でしょう。そうした寒さの中でタビもはかず素足で頑張った又他の人が休んでいても一生懸命会社の為に働いたようです。そうした努力があったからこそ相手の親方が心から感謝されたのでしょう。札幌からの帰省の折、その頃始めて出た長靴をお土産にと弟達に買求めて帰へり大変弟達に喜こばれたと鉄二郎叔父がうれしそうに語ってくれた顔が非常に印象的でした。

昭和初期の不況は全国的なものらしく、銀行なども2～3倒産したと云ふ話も聞かされておりますが、父・叔父達の札幌への出稼と合せて考へる時かなり深刻だったようです。そうした時に市役所より帯広小学校とか柏小学校の生徒用机、椅子の修繕があり支払は市役所より払ってくれたのでや

うやく息をつき、始めて荷車を買ったようです。その頃より自転車が出始ましたが中々自転車まで手が届かなかったと話してくれました。この頃より人手もあり、仕事も信用が付いて来たので昔の郵便局とか昔しの市役所と云った大きな工事の注文もあり、やうやく60銭で自転車を買ふ事が出来たようです。現在もある土蔵作りの倉庫はその時隣りの倉を解体して建てたものです。その時点では建物付で宅地が7戸分約1,000坪近にまでなっていた。

当時建具店も何軒かはあったが大和が一番先に機械の導入にふみきった。現在も昭和4年頃買入た角穴機などは第一線で活躍しており7年～8年頃買入た自動鉋機械と手押鉋機械は寄る年には勝てず今はゆっくり工場センターで後輩の活躍を見守っております。当時の記念的機械は今工場に4台大切に保存してあります。

ま　と　め

先代を偲んで

82年前の明治37年の時点に頭をめぐらせるとそこに祖父、大和権三郎の姿が見えてくる。この5体以外に頼るべきものとて持たぬ祖父は勃々として燃える志を胸に秘めながら、なにものにも屈しない不屈の精神で一人建具家具の道を歩きはじめたのである。

すべての創業者の歴史がそうであるように大和82年の歴史は無事平穏ではあり得なかった祖父が、未開拓の地帯広に根を下し建具家具製造業を始めた時、祖父に前進の力を与へたのはこの道と家族の為に生きる明日の夢だった一つ、又一つその夢を実現しながらその行手に新しい夢を描いて来たこの一筋の道の行きつくところに彼岸があると云う方向、歳覚を頼りに未踏の荒野をふみ分けて来たのであろう。砂漠に種を播くように未知の地帯広に必ず何んとかして見せると云ふ固い決意で繁栄と云ふ緑の苗木を、植へ育てた祖父母の生涯の歴史は同時に私共一人一人の生活史でもある。

あとがき

祖父母が渡道して82年たちました80年にこのような記念誌的なものを出す予定でしたが、丁度時悪く私も健康を害して床に伏し、折角のチャンスを逃して以来何んとか旧復した今先代の苦難の上に現在の私達の恵まれた生活がある時、少なからず私達の生立ぐらいは知っておき、又子孫に言い伝へる事は義務と云ふよりもお互の繁栄の為にも決して忘れてはならない事を痛感し、祖父母、叔父の言葉を断編的に書いて見ました。孫の中で私が一番祖父母に時間的にも多く接しており、又叔父、叔母、父母からも沢山の昔話を聞いております。そうした一つ一つの厳い歴史を私達一族が先代の形見として受取って頂きたいと思います。このように文をまとめるなんて赤面の至りでございます。先代の苦難の生活史全部を網羅することは出来ませんが、荒筋のみ紹介させて頂きその他のもれている部分については各自の家庭でご推察下さい。あくまでも82年前からの記憶をたどっている関係上年代と月日の若干のずれが多くあろうかと思いますが、現在までの生活史はすべてはこの一連の流水の中に事実としてあったと云う事でご推察下さい。

この度の事については叔父、叔母に御協力頂きました。特に鉄二郎叔父には私がお宅までおしかけ1日中貴重なお話を聞かせて頂きほんとうに参考になりました。紙上を以って心からお礼申し上げます。有難うございました。

大和本家長男　　大　和　与　三

祖父母、叔父母の生年月日

故祖父　大　和　権三郎

父　大　和　権三郎
母　不　　詳　　長男　幼名　与次郎
明治９年４月12日生

出生地　富山県高岡市木町133番地
大正４年８月16日受付入籍

故祖母　大　和　こ　と

父　苗加七郎右エ門
母　苗　加　ノ　ブ　　長女
明治５年10月10日生

明治28年9月16日　本市坂下町平民苗加七郎エ門
長女入籍

故　大和　與　一　長男　明治29年４月15日
故　大和　そ　と　二女　明治34年１月27日
故　大和　鉄二郎　二男　明治37年８月27日
故　大和　勝　治　三男　明治41年６月10日
故　大和　與四雄　四男　明治44年４月11日
故　大和　みい子　三女　大正３年２月12日
故　大和　誠　治　五男　大正６年１月19日

小　　史

渡道明治37年 9月	富山県高岡市木町133番地より家族と共に大和権三郎28才で最初 東2条6丁目1番地西仲通り角2戸借家 中村様の隣に落ち着く。
明治38年 5月	西3条南3丁目で大和建具家具製作所
昭和 2年10月	建具家具の製造を開始
昭和 4年 7月～ 8月	帯広木工業界で始めて木工機械を導入する。
昭和23年	有限会社　大和家具店の商号で設立、法人に組織変更 資本金　100万 代表取締役　大和與一氏
昭和25年	大通り10丁目10番地㈲大和家具店支店 家具建具販売所店舗新築
昭和27年 9月18日	初代社長　大和與一氏死去
昭和27年 9月20日	2代目社長　大和鉄二郎氏就任する。
昭和42年 4月	大和鉄二郎氏札幌に移住
昭和42年 5月	3代目代表取締役　大和與三就任
昭和45年 8月	資本金　150万に増資
昭和48年 1月31日	建設業の許可を受る（建具工事業）
昭和49年 6月11日	資本金　214万に増資
昭和50年 5月	製品センター倉庫新築落成
昭和50年11月	優良道産品推奨協議会よりカラマツドアー推奨を受る
昭和55年 8月 6日	資本金715万に増資
平成 4年 3月 7日	3代目社長　大和與三死去
平成 4年 3月	4代目社長　大和よし就任
平成 4年 8月30日	有限会社　大和家具店より分離
平成 4年 9月 1日	株式会社　ヤマト木巧　社名変更製造部門 資本金　1,000万で設立 代表取締役　大和よし就任
平成 9年 4月13日	帯広市西24条北2丁目5番地59工業団地 現在地、新築移転する
平成10年 5月11日	5代目社長　大和与志一代表取締役就任 取締役会長　大和よし
平成16年 9月17日	創業100年を迎へるに到る

会　社　の　変　歴

社　名　株式会社ヤマト木巧
所在地　帯広市西24条北2丁目5番地59
TEL　0155-37-6553
FAX　0155-37-6523

明治37年9月	富山県高岡市木町より移住
明治38年5月	帯広市西3条南3丁目6番地にて建具家具の製造を開始する
昭和4年7月～8月	帯広木工業界で始めて木工機械を導入する。
昭和23年3月	資本金100万で有限会社大和家具店の商号で会社設立法人に組織変更する。 初代社長　大和與一氏就任
昭和25年	帯広市大通10丁目10番地家具建具の販売所店舗を新築する
昭和27年9月18日	初代社長　大和與一氏死去
昭和27年9月20日	2代目社長　大和鉄二郎氏就任
昭和42年4月	大和鉄二郎氏札幌に移住
昭和42年5月	3代目社長　大和與三就任　40才
昭和45年8月	資本金150万に増資する
昭和48年1月31日	建設業許可を受ける（建具工事業）
昭和50年5月	製品センター倉庫落成する
昭和50年11月	優良道産品推進協議会よりカラマツドアー大和推奨受ける
平成4年3月7日	三代目社長　大和與三　白血病にて死去
平成4年3月18日	四代目社長　大和よし　就任
平成4年8月30日	有限会社大和家具店より分離社名変更
平成4年9月1日	株式会社ヤマト木巧　資本金1,000万で設立 人員構成　代表取締役　大和　よし 専務取締役　長島　健二 常務取締役　大和与志一 取　締　役　宇野　里巳　梅本トキエ 小山　芳夫　北川三恵子 武田　守　福田　吉広
平成6年7月末日	三代目社長の片腕として活躍した、専務取締役　長島健二氏退職 新しく、　専務取締役　大和与志一 取　締　役　小山　芳夫 取　締　役　武田　守
平成9年4月13日	帯広市西24条北2丁目5番地59工業団地 現在地　新築移転する 旭川市有限会社　伊勢工業所による
平成10年5月11日	5代目社長　大和与志一就任 人員構成　代表取締役　大和与志一（木工建具1級技能士） 取締役会長　大和　よし 取締役工場長　武田　守（木工建具1級技能士） 取締役副工場長　小山　芳夫（木工建具1級技能士） 福田　吉広（木工建具2級技能士）退職 根上　勝全（建具家具2級技能士） 梅本トキエ 晴山　和雄（建具2級技能士）退職 北川三恵子 大和みどり（建設業経理事務士2級） 菅井　彦文（木工建具1級技能士） 小林のぞみ（建具2級技能士） 取引銀行　北陸銀行帯広支店 北洋銀行帯広支店 北海道銀行帯広支店 帯広信用金庫本店

会　社　の　概　要

社　　名	株式会社ヤマト木巧
所　在　地	帯広市西24条北2丁目5番49
	TEL　0155-37-6553
	FAX　0155-37-6523
資　本　金	10,000,000円
代表取締役	大和与志一
取締役会長	大和　よし
取締役工場長	武田　守
取　締　役	小山　芳夫
監　査　役	1名
株　　主	5名
従業員数	10名
取引銀行	北陸銀行帯広支店
	北洋銀行中央支店
	北海道銀行帯広支店
	帯広信用金庫本店
保有不動産	土地・社屋・工場

現在の人員構成

氏名	役職	入社年月日	
大和与志一	代表取締役	昭和60年 4月 1日	1級建具技能士 2級建築施工管理技士(仕上)
大和　よし	取締役会長	昭和28年 6月 1日	
武田　　守	取締役工場長	昭和46年 6月 1日	1級建具技能士
小山　芳夫	取締役	昭和50年 3月15日	1級建具技能士
梅本トキヱ		昭和47年11月	
北川三恵子		平成 4年 4月 1日	
根上　勝全		平成 7年11月13日	1級建具技能士
大和みどり		平成 9年 4月 1日	建設業経理事務士2級
菅井　彦文		平成12年 7月 1日	1級建具技能士
小林のぞみ		平成14年 3月 1日	2級建具技能士

工場設備一覧表

平成 1年 8月	自動一面かんな盤HAD-450型　1台
平成 3月 3日	温風暖房機　HP-81 1台
平成 3月12日	モルダー　6じく　1台
	モルダー用刃物一式
	自家受電設備一式
	集塵設備　一式
	フインガー　一式
平成 5年	いすゞエルフ150　4WDアルミバン（箱車）
平成 5年12月	エッチバンダー（縁貼り機）1台
平成 9年10月	コンピューター　一式
平成12年 1月	ラジアルカットソー　1台
	パネルソー　2台
	ダイモウ横切機械　1台
	レーザーライナー墨出し器　1台
平成13年	コピー機　1台

営　業　の　履　歴　書

～建具家具工事・主なもの～

年月日不明1札幌の叔父よりの話

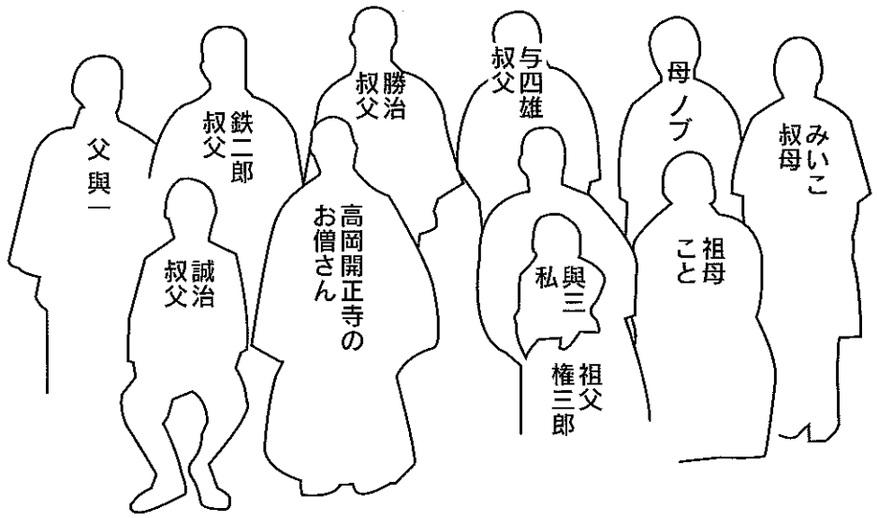
昭和5年～7年頃	旧市役所、郵便局（本局）、旧商工合議所
以来毎年春先	市内及各町村の生徒用机・椅子製作
昭和38年11月	根室標別防衛庁隊舎建具工事
39年11月	道立帯広工業高校建具工事
40年12月	道立帯広農業高校宿舎建具工事
41年 9月	畜産大学校舎第1期建具工事
42年 9月	畜産大学校舎第2期建具工事
43年10月	帯広道営住宅建具工事
44年 6月	池田電信電話局建具家具工事
	帯広市開発建設部アパート建具工事
45年 8月	第一熱原ビル建具家具工事
46年 9月	市内栄小学校建具工事
46年12月	士幌町立国保病院建具家具工事
47年 8月	幕別町庁舎建具家具工事
47年 9月	帯広市総合体育館建具家具工事
48年 7月	帯広グランドホテル建具家具工事
48年10月	弟子屈国立病院訓練棟建具家具工事
49年10月	市内協立病院建具家具工事
50年 6月	帯広郵便局本局社屋建具家具工事
50年10月	畜産大学管理課棟建具家具工事
51年 9月	帯広刑務所アパート建具工事
52年 7月	大谷高校新築建具家具工事
52年 9月	音更町庁舎建具家具工事
52年12月	帯広市公営住宅4階建建具工事
52年 6月	糠平ホテル大雪建具家具工事
53年 6月	川湯温泉御園ホテル建具家具工事

53年10月	町立鹿追スポーツセンター建具家具工事
53年12月	豊頃町農協庁舎建具家具工事
54年 6月	十勝川温泉笹井観光ホテル建具家具工事
54年10月	町立鹿追中学校建具家具工事
55年 2月	帯広市厚生病院建具工事
	帯広市厚生研修センター建具工事
56年 3月	畜産大学国際交流センター建具家具工事
57年12月	道立帯広農業高校建具工事
57年12月	市内拓銀ビル改築建具家具工事
58年10月	緑陽高校校舎建具家具工事
58年11月	市内ヒルトンビル建具家具工事
59年10月	アイレデイス社屋建具家具工事
59年11月	弁慶総本店建具家具工事
59年11月	帯広市南町中学校建具工事
60年 4月	帯広市八千代中学校建具工事
60年10月	地方職員共済職員住宅建具工事
61年 8月	堀整形外科建具工事
61年11月	帯広西陵中学校建具工事
62年 5月	音更町晩成学園建具工事
62年11月	帯広ガス株式会社建具工事
63年 7月	帯広市ニュータウン市営住宅建具工事
63年11月	帯広厚生病院宿舎建具工事
平成 1年 2月	鹿追町立小学校建具工事
1年11月	公立高校共済住宅建具工事
2年 5月	帯広市営住宅明和団地新築建具工事
2年12月	帯広建設業会館新築建具工事
3年 7月	帯広市市営住宅明和団地（R-3）新築建具工事
3年12月	帯広営林支局新築建具工事
4年 9月	すき焼松伊別館新築建具工事
4年11月	帯広厚生病院私設保育所新築建具工事
5年 2月	帯広市道営住宅新築工事（新緑第2団地R5・6）
5年 9月	帯広市消防署森の里出張所新築主体工事の内木製建具家具工事

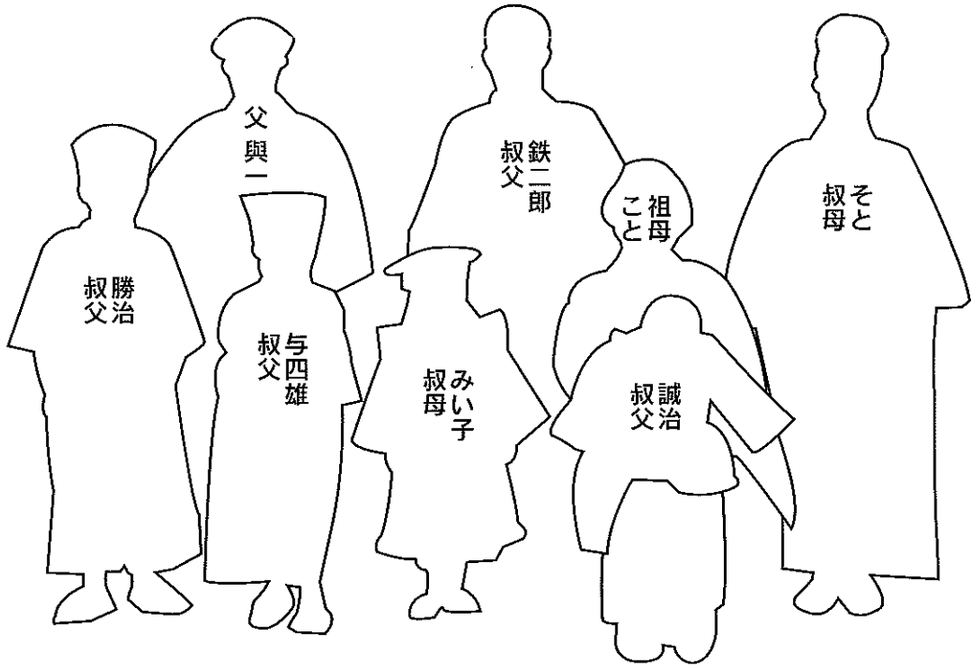
5年12月	アメニティ帯広新築工事
6年 1月	帯広市西五条橋福祉センター木枠建具家具工事
6年 7月	アイシン厚生施設木製建具家具工事
7年 7月	帯広市農業技術センター管理棟主体工事の内木建工事
7年 9月	帯広日本神宮明神大社社務所住宅改築工事の内木製建具工事
7年12月	帯広マンション第2新築工事木製建具工事
8年 8月	帯広市道営住宅新築建具工事（中央団地R-1）
8年 8月	更別ふるさと館木工事
8年 9月	北海道立帯広工業高等学校屋内体育館改築工事木枠・カーテンBX
8年11月	北海道立帯広工業高等学校柔剣道場更家工事の内木建工事
9年 2月	浦幌町コスミックホール新築木枠・家具工事
9年 9月	サンプライトハイツNo.4新築工事の内木製建具工事
10年	帯広市柏林台団地北町市営住宅建替工事（R-1）の内木枠工事
10年 8月	トウケイカイソウビ苑木工事
11年 8月	幕別町道営住宅新築建具工事（若草団地CD）
11年11月	北海道音更高校改築工事（第5工区）木製枠家具工事
12年 7月	特別養護老人ホーム札内寮増改築工事木工事
12年11月	地方職員共済組合職員住宅新築工事帯広A地区建具工事
13年 4月	北海道帯広柏葉高等学校改築家具・建具雑工事
13年 7月	六花亭本社及工場家具雑工事
13年 8月	六花亭札内OK店木製建具・家具工事
13年 8月	北海道鹿追高等学校改築仕上ユニット工事及木工事
14年 6月	平成13年度帯広市大空団地（2街区）市営住宅建替事業建具工事
14年 5月	地方職員共済組合職員住宅芽室地区
14年10月	地方職員共済組合職員住宅新築工事帯広東11地区（建具工事）
15年 1月	特別養護老人ホーム帯広けいせい苑増築工事（家具・取付工事）
15年 1月	緑町団地公営住宅5号棟新築建築工事の内木製建具工事・雑工事
15年 9月	帯広市道営住宅改善建具工事（大空団地丘31号棟）
15年12月	鉄南保育所建築主体工事
16年 3月	北海道池田高等学校産業教育施設新築工事木製建具工事
16年12月	花園町西公営住宅建設工事

思い出のアルバム

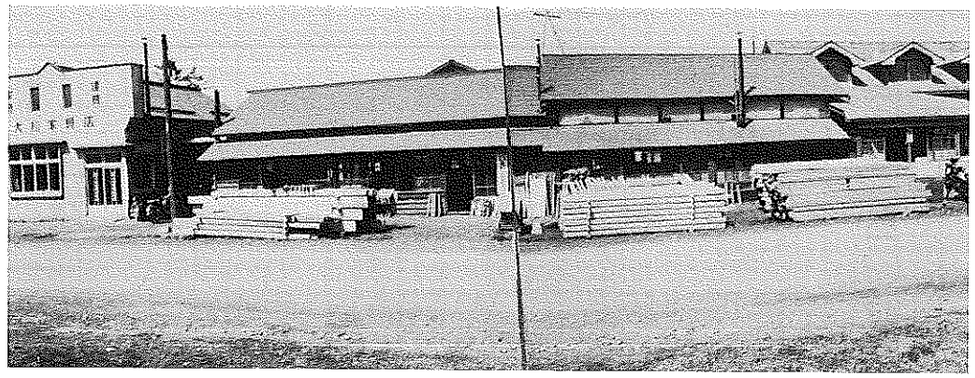
曽祖父母の晩年の写真



昭和２年９月頃と思います。
（私が昭和２年７月６日生れですから）
うしろの住宅が一番古い住いです。

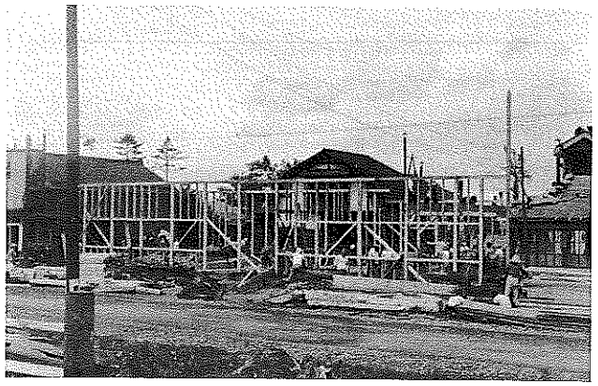


故 父 與三から見た続柄
大正６年の春頃と思います。

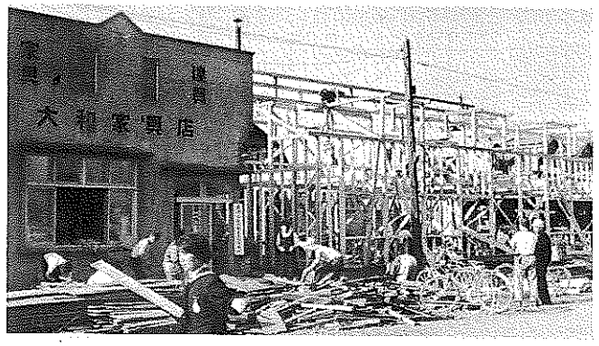


中の建物が一番古いものです、左側の片隅で曽祖父が仕事をしていた場所。
右側は現有限会社大和家具店社長大和英治殿幼少の頃生れ育った家を工場に改造したもの左パラペットは、昔からの土蔵で、事務所として。
一番右側の２階の窓のある建物は終戦後父・与三の叔父大和鉄二郎が建てた物、昭和20年から30年の間。

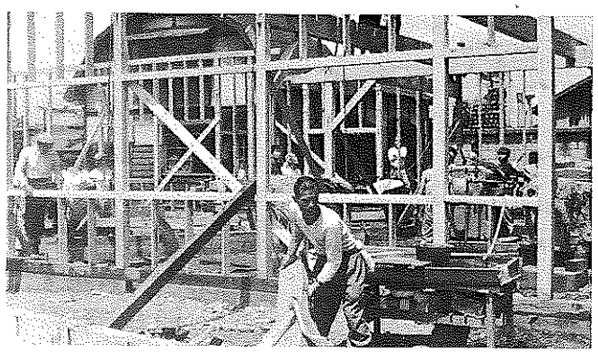
上記工場を右側より写した物



前ページ写真の古い工場を新築する。建前の風景。
奥の中２階の建物が私達の住居。幼少の頃暮した家。



上と同じ。
建築は千野市街の中谷建設工業。

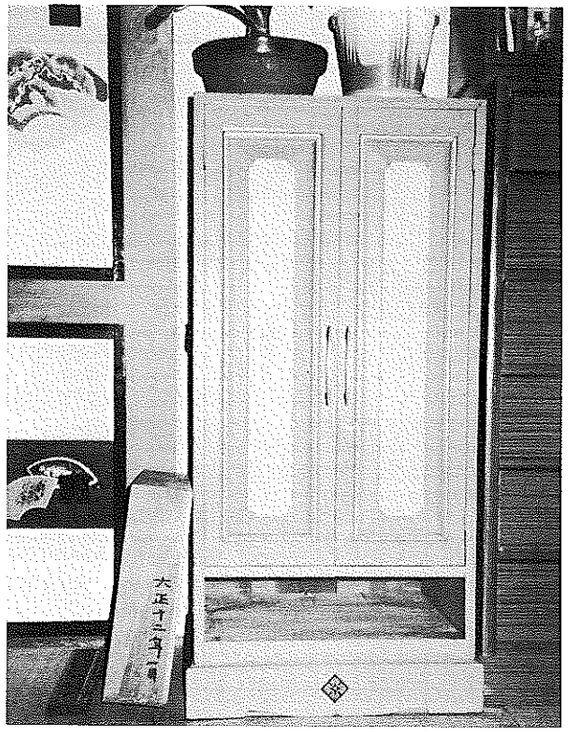


三代目社長の故大和鉄二郎。父の叔父が一生懸命に材料の片付をして居ります。

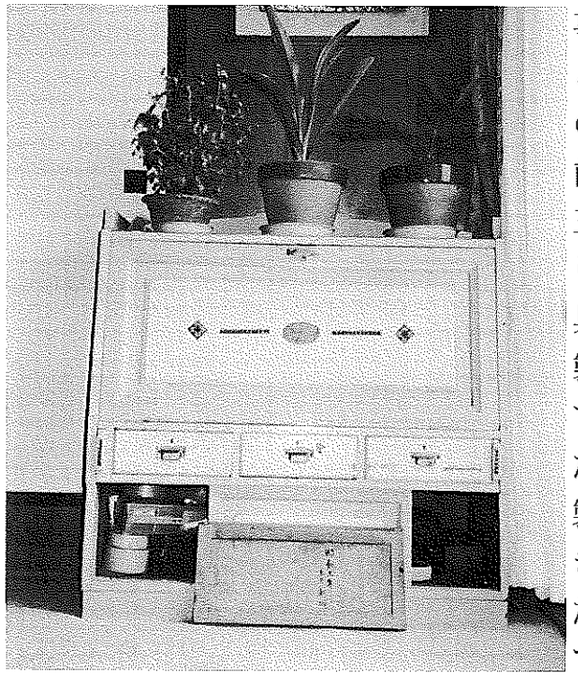
一応完成です。総工費、父・大和與三の記憶では150万ぐらいで出来たようです。昭和30年～35年頃との事です。

現（有）大和家具店。
昭和30年頃に大通り南10丁目に支店として新築した建物。

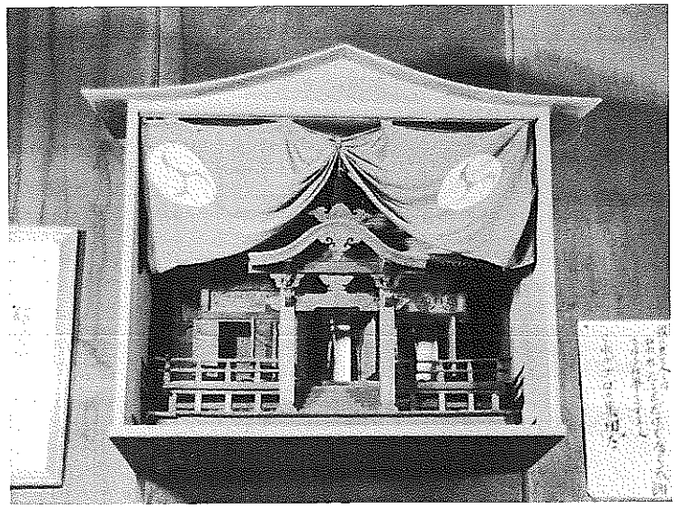
右側帯広川堤防よりの建物は製品センター倉庫として、昭和50年有限会社佐虎建業に建築してもらい、現・十勝家具建具産業協同組合の事務所として借りて頂いている。
左側角の２階建の部分昭和47年に増築し、２階が事務所になっていた。



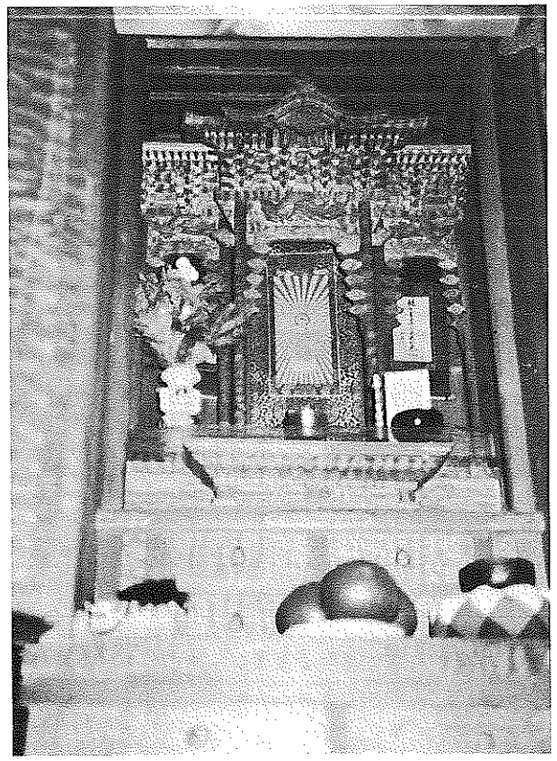
札幌の鉄二郎叔父の所有です。
左記本箱は鉄二郎叔父が大正12年１月に制作したものです。年代記入がなつかしいです。私の生れる前のものですね。



事務用机、昭和３年５月新調と記入してあります。古いものです。此の机は今より大分前に大通り７丁目か８丁目に三友商会と云ふ家具店が有り、その主人が内地方面の家具又は道内の有名家具工場の製品を集めて来て昔の公会堂で販売かたがた即売会を開いた時、叔父が何か参考になる製品がある事と思い会場に行き自分が一番気に入った製品だと思い自分で制作したものです。今より56年位前の物。

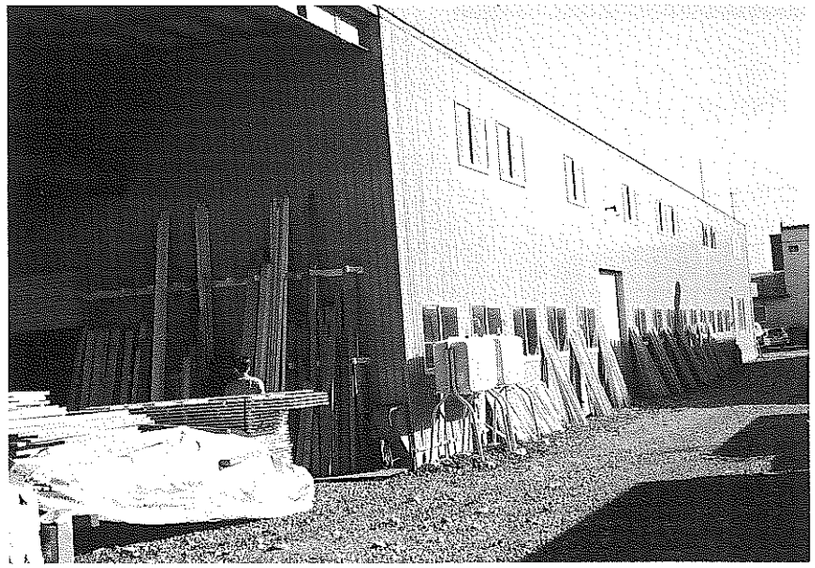


曽祖父がこの神棚を3ヶ造った内の1台です。現在も、当社の事務所に飾って有ります。

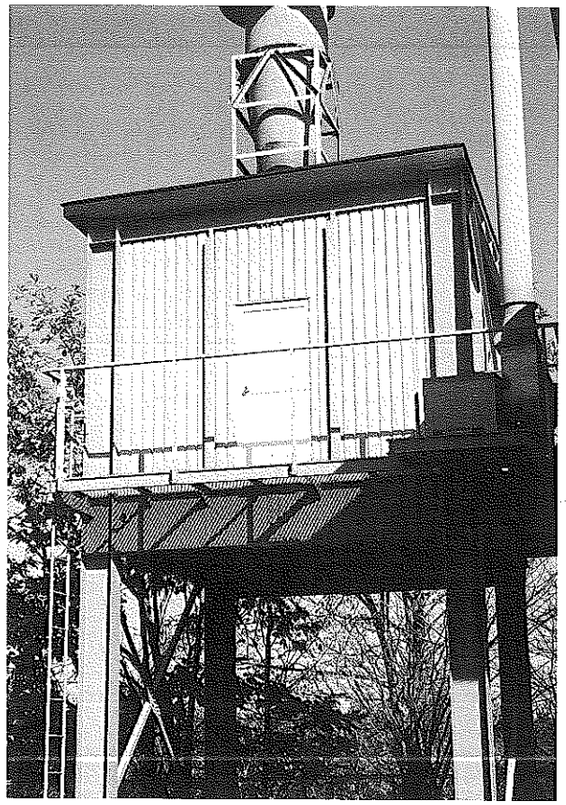


曽祖父が大正5年頃製作した仏壇です。この仏壇は現在札幌の鉄二郎父の叔父の所にありますが、叔父が小学校5年か6年生の時の年代物です。
外枠部分は私の父も一部祖父に手伝って作ったそうですが、中の彫刻は祖父が全部ほったものです。
今から丁度90年前の仏壇です。私も見せてもらいましたがよく出来ているなーと感心の傑作だと云って父が話して居りました。

平成9年4月13日
現工場を工業団地西24条北2丁目5番地59に新築移転する。
旭川の伊勢工業所により建設される。
東側から写した処。

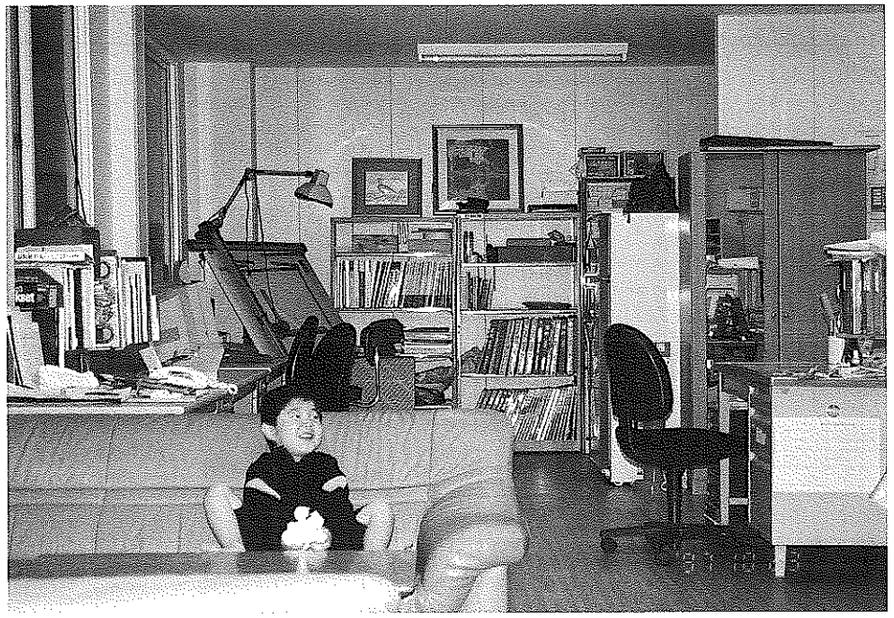


西側から写した処
屋根の有る場所は材料置き場になっている。
材料置き場の西に集塵機が設置されて居る。



集塵機工場内の機械から出る塵はホースにて此の中に入る様になっている。

従業員の焼肉風景

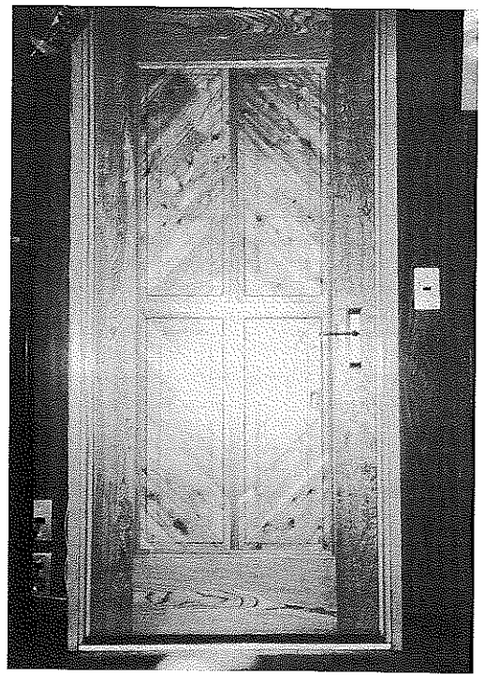


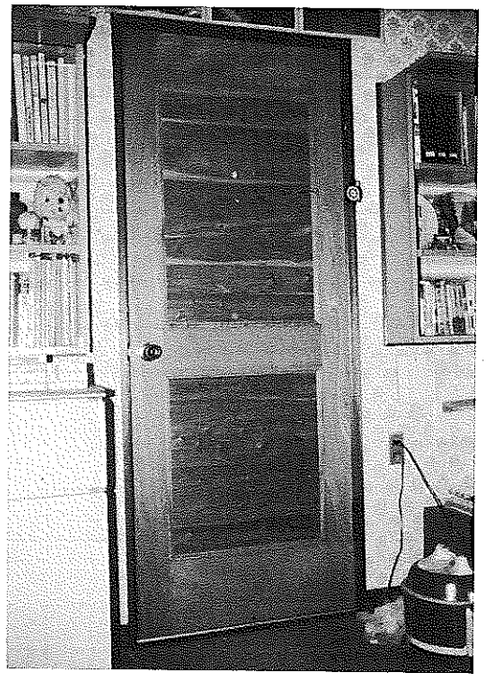
事務所内

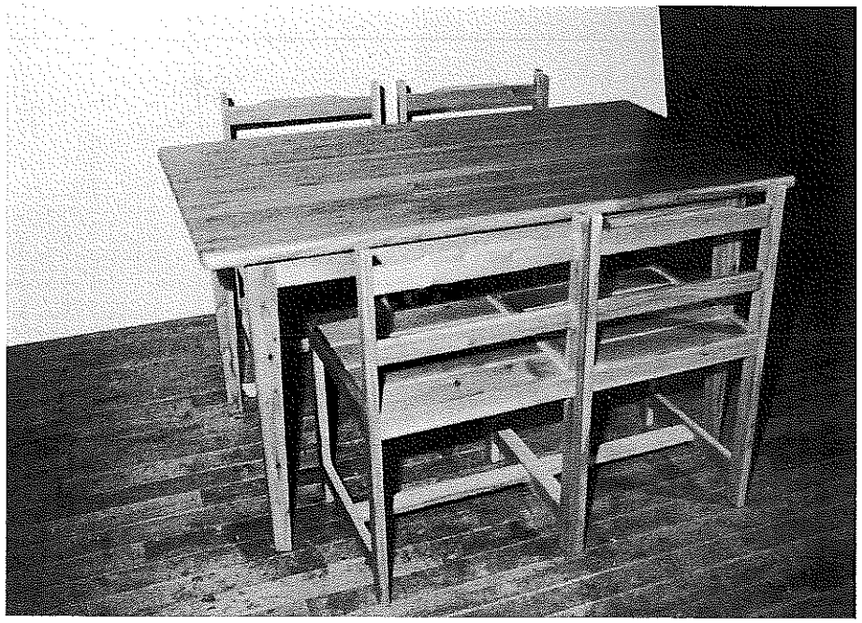
優良道産品推奨品

カラマツドーア大和

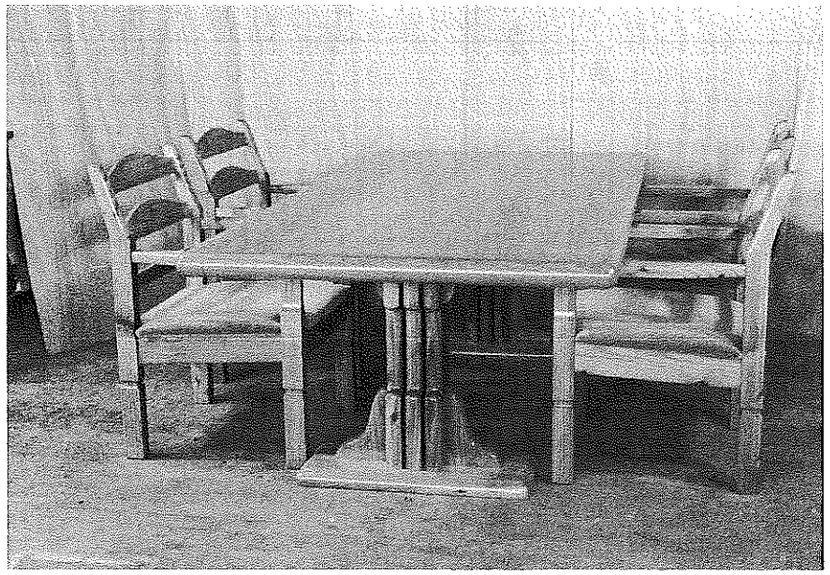
自然の豊さ個性的カラマツドーア大和



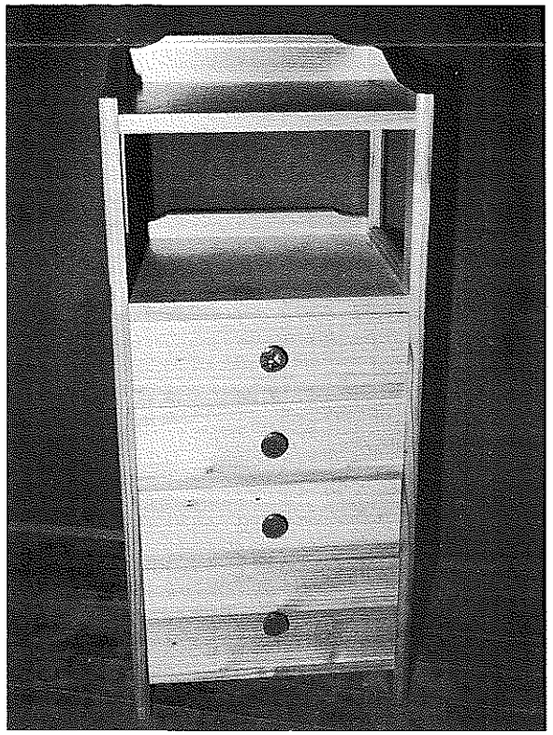




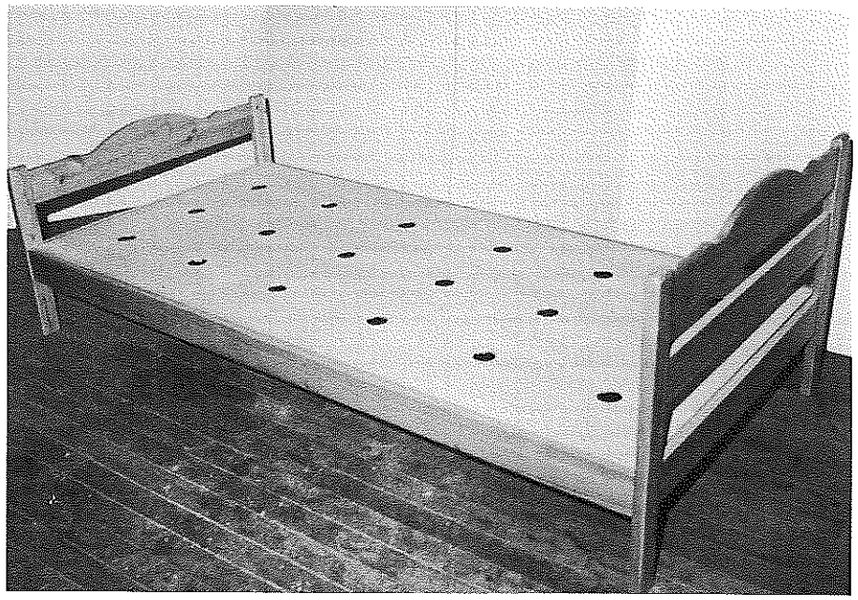
食　卓



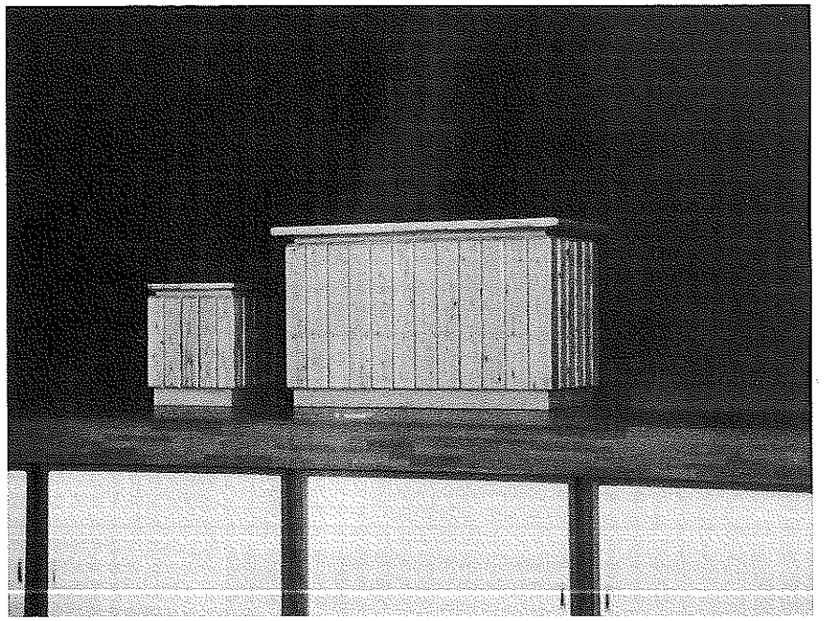
からまつの会議用テーブル



シングル寝台

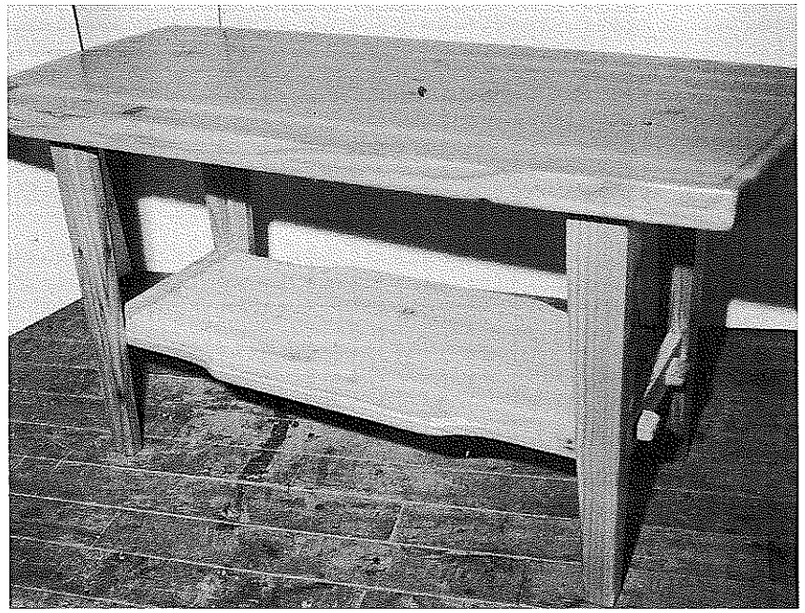


自然の豊さ個性的な 男性的 女性的 なカラマツ家具の魅力

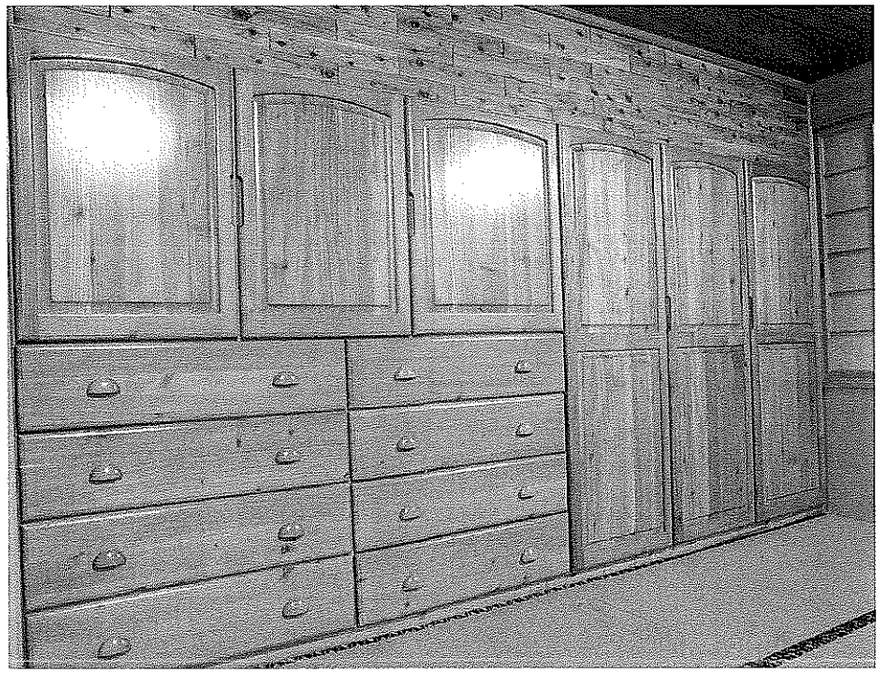


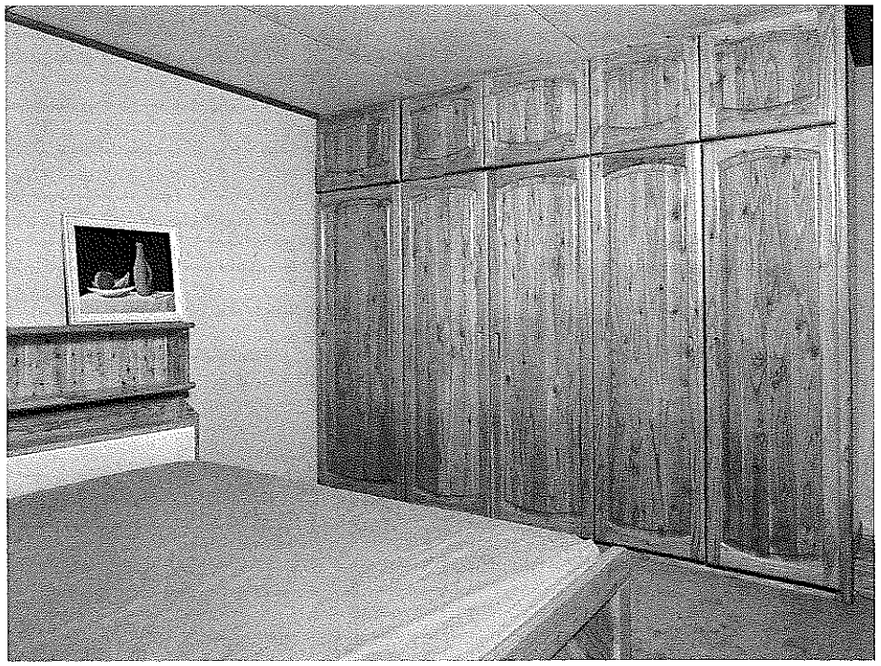
池田町
高島公民館
演台と花台

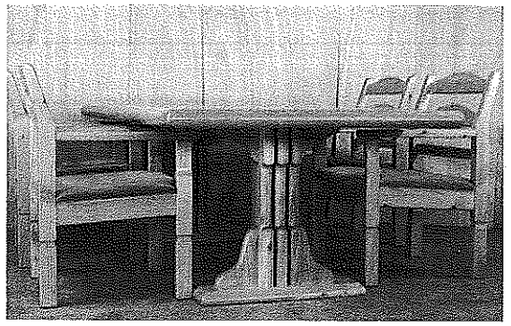
洋　卓

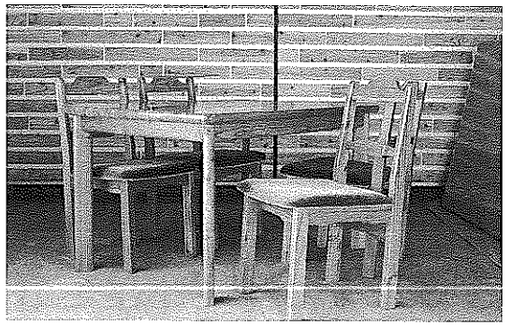


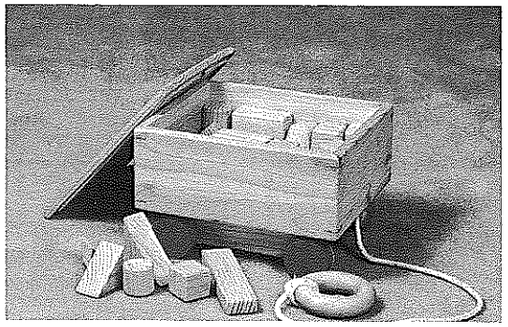
カラマツ柾目収納タンス

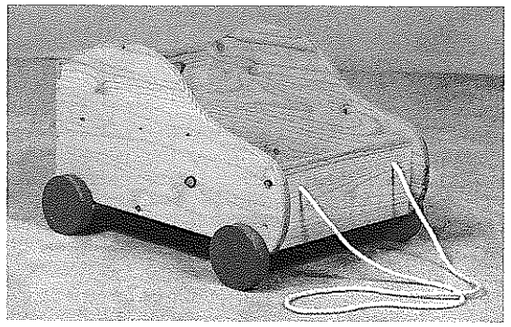


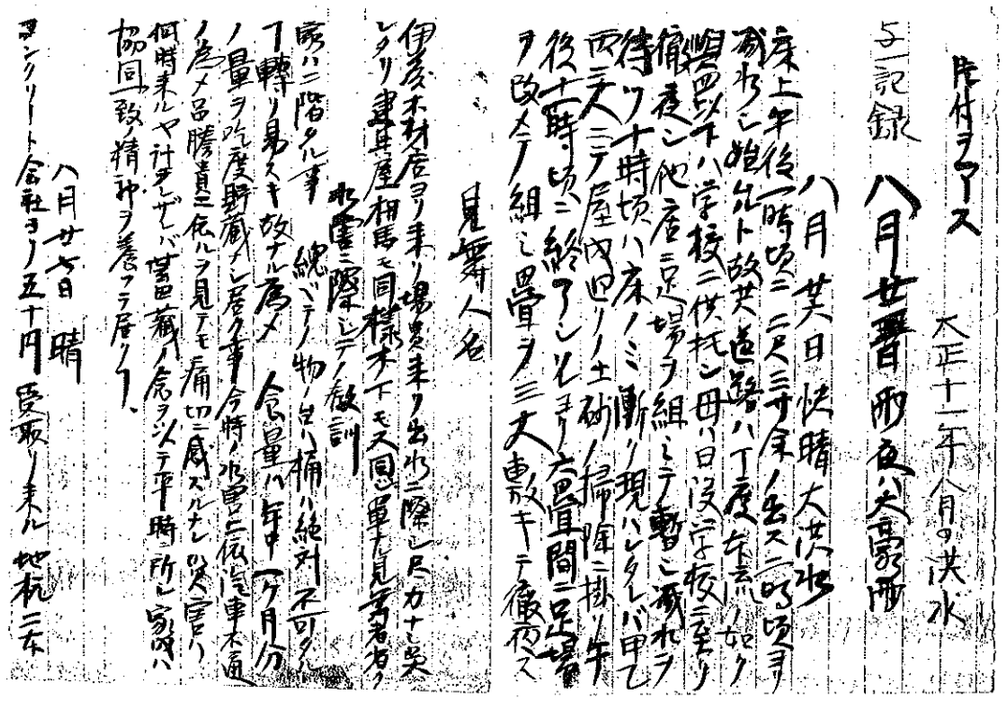




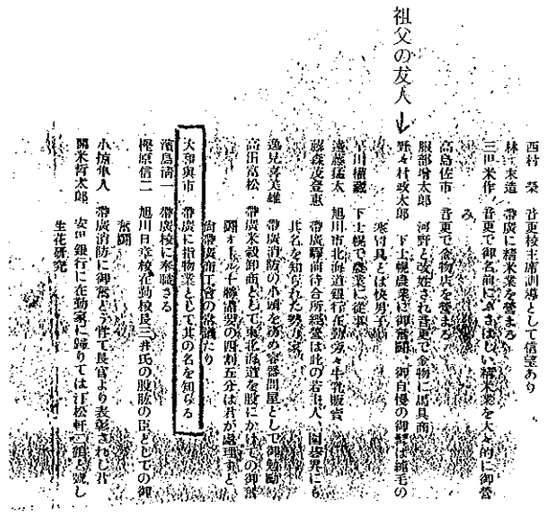








大正11年8月25日の大洪水の時の祖父与一が時の状況と後世に教訓として残した記、当時の模様が目にうつります。



明治43年、祖父が高等小学校卒業時の記録
（卒業記念誌より）

明治三十七年、電信通で児玉某が家具を作っていたというが、詳細はわからない。同年、富山県人大和権三郎が南三条四丁目で創業した。のち菓子商に転ずる宮谷清太郎も、明治末期には建具商を営んでいた。

大正五年開店は山下豊松と曾根春吉（大通五）の二人、山下は永続しているが、曾根はまもなく転業した。加藤嘉三郎（大通八）中村信治（東二条八）武田銀蔵（同）小林亀吉（東一条四）と相ついで開業して大正時代を終るが、角ソ田村（大通六）柴田家具店（西二条八）の名も残っている。

昭和九年十二月、帯広家具工業組合が組織された。組合員百十八人、その内訳は店主四十三人・職員四十二人・弟子三十三人であった。組合は西二条十五丁目に工場を設け、共同生産によってコストを下げようとした。技術向上も重要な狙いであった。しかし、この試みは戦争によって中絶された。

10　瀬戸物

日常生活と縁の深い陶磁器類の専業者は案外に少ない。

明治三十一年、大通六丁目の仮小屋で小川富吉が瀬戸物店を開いた。小川は二年ほどで清酒醸造業に転じ、しばらくは空白時代が続く。雑貨店が片手間に扱ったわけである。明治末期になって、角ソ田村商店（大通六）丸ス曾根捨次商店（大通五）丸ト斉藤吉五郎（大通八）が陶磁器やガラス製品を店頭に並べた。

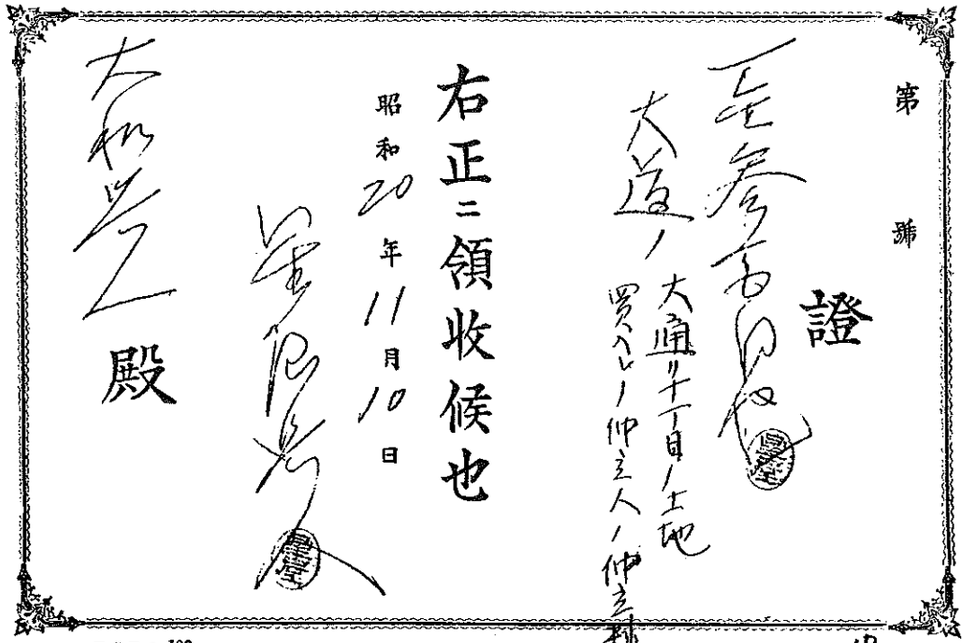
田村は家具、曾根は茶、斉藤は漆器を併せて販売していたが、いずれも現存していない。明治末期から大正初年にかけて、よく旅商人が大道で叩き売りをしていた。

大正十年には高井商店（西二条一のち西二条五、大通九）と加納商店（大通十一）昭和二年には秋元商店（西二条五）が、それぞれ専業の店を開いた。

大正二年は低温大凶作。十勝は、平均反収が水稲五升、大豆が二斗七升という惨状となった。八月二十八日には台風による水害があった。帯広測候所の調べによると二十六日から二十八日にかけて百四十二ミリの降雨量があった。九月二十四日には大降霜があり作柄を決定的なものにした。同八年九月から十月にかけて、十勝川が三回にわたって氾濫、十月二日には河西橋が流失した。全道的な洪水であったが、十勝と北見の被害が特に大きく、十勝では住宅・農作物・公共土木などの被害は六百五十万五千五百七十六円、いまの金にして二十二億円にのぼる被害があった。この間にも三年八月十六日の低気圧による洪水、五年五月九日の融雪出水など数々の水害が記録されている。同九年六月、十勝川が溢れ、せっかく架替えた河西橋がまた落橋し、八月十一日から連日三日間に百十五ミリの降雨量があり、帯広の浸水耕地は百六十町歩。この年、十勝地方は冷害凶作。

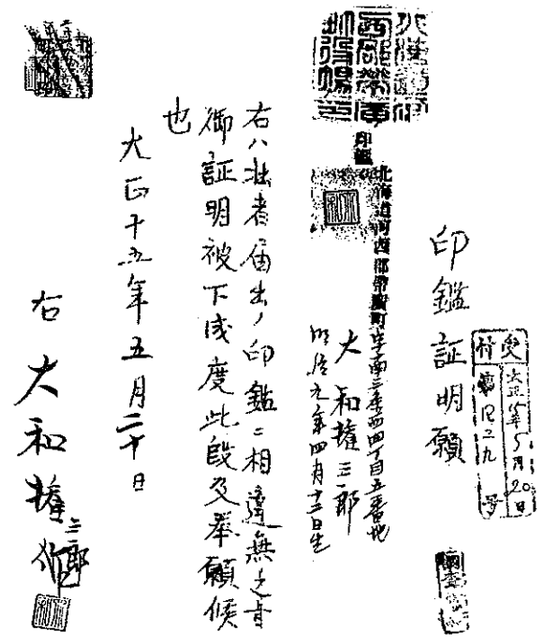
同十一年八月二十五日、帯広地方は大洪水に襲われた。帯広での二十四日から二十五日にかけての降雨量は二百十三・七ミリ、十勝川とその支流の各河川は大増水をきたした。二十五日正午、十勝川帯広付近で一丈三尺、池田付近では一丈七尺と水位を高め、沿岸一帯は泥海と化した。帯広町では、家屋の流失十四・同損壊九・床上浸水百九十一・床下浸水三百二十一・田畑の浸水冠水流失五百九十七町・道路の欠壊国道地方費合せて十カ所八百八十間・橋の流失同四・同破損一・提防欠壊同七カ所四千八百間、被害合計八十二万七千四百余円。十勝管内では、死者十五人・家屋の流失破損五百二十八・床上床下浸水四千二百三十八・家畜の溺死百二十九・田畑の流失冠水二万六千三百町歩、このうち七千九百町歩は収穫皆無という打撃を受けた。このほか道路の欠壊流失二万四千八百間・橋の流失損壊三百二十三カ所・提防欠壊一万九千間など千百七十五万円余り。今の金額にして四十七億という大きな被害となった。帯広市街地では大通橋が流され、南七丁目線まで

帯広市史より

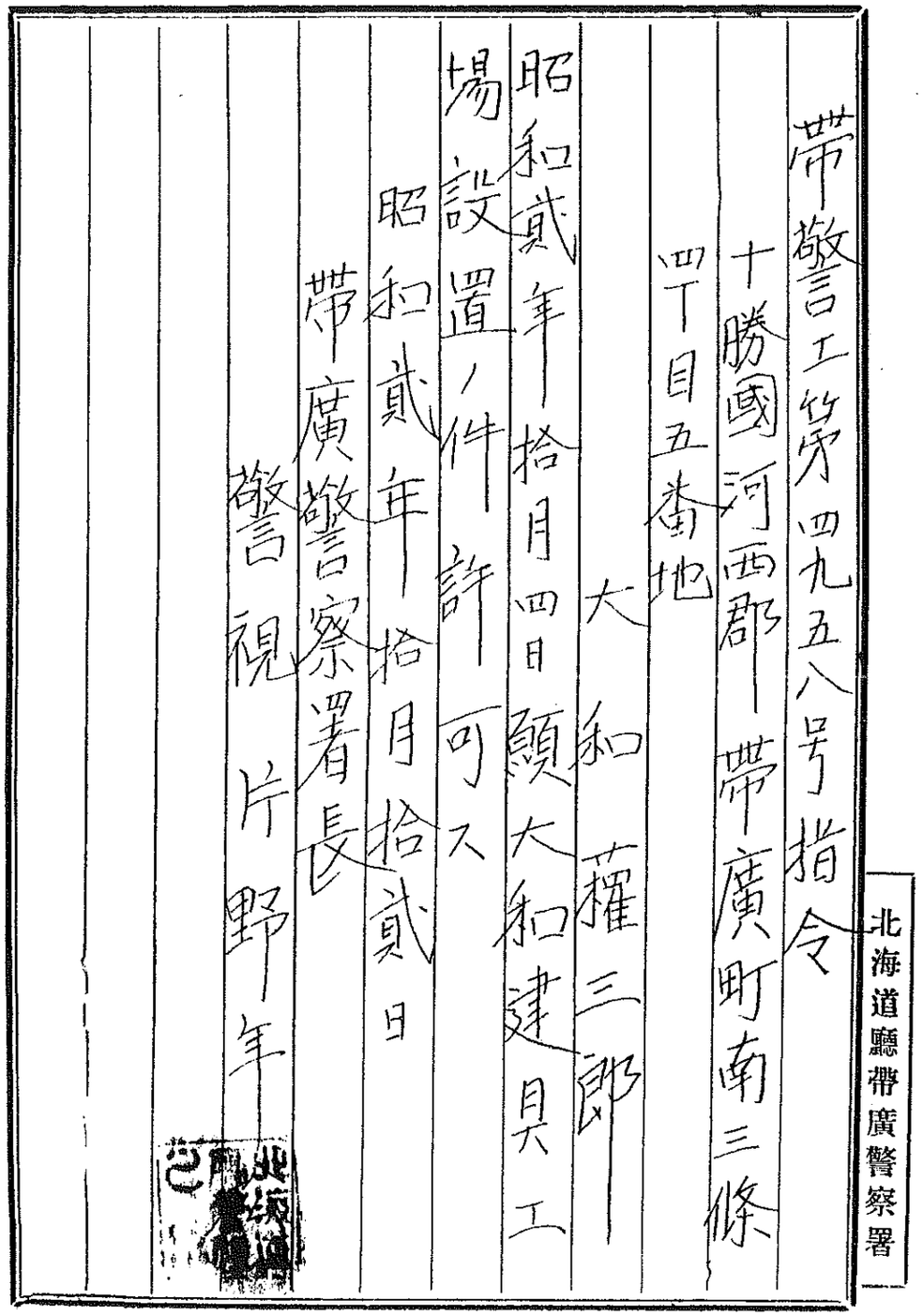


コクヨ● 100

市内大通り10丁目　2戸分 324坪。
買入時の不動産屋の手数料。
2戸分で一金当地の金で2万也だ。
一寸の間で2万が4万になったそうです。



大正15年5月20日付
我が家の実印。現在は使用しておりませんが当時の実印です。
当時の実印は保管しております。ずい分活躍した実印です。


帯廣警工第四九五八号指令
十勝國河西郡帯廣町南三條
四丁目五番地
大和權三郎
昭和貳年拾月四日願大和建具工
場設置ノ件許可ス
昭和貳年拾月拾貳日
帯廣警察署長
警視 片野年
北海道廳帯廣警察署

む　す　び

馴れない作文由前後のまとめが不規則になったりして大変読みにくき点と判読判断に苦慮するところも多くなろうかと思いますが、叔父、叔母より更に細かくお聞き頂き各人なりの記念誌として頂き益々忘れられて行く先人の足跡を後世に残して頂きたいと思います。又、年号月日等に付きましても若干の間違等も多くあろうかと思いますが荒筋としてまとめてありますので何卒ご了承下さい。

思い出のアルバムはまだまだ多澤皆様方お持の方もおられると思いますが仕事の合間と時間の関係上独断的にまとめ上げてありますので、最後の空白の頁に各自の記念写真をお張り下さい。更に更に皆様のお力で良いページにして頂きたいと思います。今こうして自分の姿を見、更に100年前に焦点を合せて考へた時、大和に生れたのも何かの因縁であろうし、又次から次へと逆遡って時元を思いをめぐらした時、人生一つの大きな流水の中で生きているが目的があるないは別としてさまぎまの苦難と同時に喜こびもあるのだな－とこの年になって始めて知らされた思いですが、皆様には益々ご健康に留意され一族の繁栄と合せて地域社会発展にご尽力下さい。

昔の事は解らないので父の80年誌を写させて頂き、我々の基礎になる部分を忘れないように書かせて頂きました。

最後に作成に当り資料其の也で種々御協力頂きました皆様方のご健勝とご多幸を念じながら失礼ながらまとめさせて頂きたいと思います。

ありがとうございます。

大　和　与　志　一

100年のあゆみ

発　行　者　　大　和　与　志　一
発行月日　　平成16年 9月30日
印　刷　所　　大同出版紙業株式会社